ところが『統一教会の分裂』は、この内容が、真のお母様が語られた言葉であるかのように改竄しており、これを「創始者を不信する韓鶴子の態度」を裏づけるみ言であるとしているのです。これは、とんでもないみ言の改竄であり、〝虚偽の主張〟です。

㈧ 絶対従順であられる真のお母様（二〇〇五年二月二十五日）

『統一教会の分裂』は２４８ページで、真のお父様が「韓鶴子に対する残念な感情」を表しているとして、二〇〇五年二月二十五日のみ言を引用します。

「ついに真の父母が来て神様と一つになり、体を永遠に探すためにも苦労しました。それを知らなければなりません。お母さんを再び創造、作らなければなりません。お母さんが主張できない部分なのです。……お母さん、分かったか」（マルスム選集４８９－27）

『統一教会の分裂』は、この内容が「韓鶴子の不従順」を裏づけるみ言であると述べます。しかし、これは〝虚偽〟の解釈・主張です。『統一教会の分裂』は、引用している直後の部分のみ言を「……」で省略し、さらに日本語訳では〝誤訳〟することで意味を〝改竄〟しています（注、太字ゴシックの部分）。以下、「……」の部分を青い文字で引用します。

「ついに真の父母が来て神様と一つになり、（神様の）体を永遠に探すためにも苦労しました。それを知らなければなりません。お母さんを再び創造、作らなければなりません。**お母さんが主張できない部分なのです**。だから今回、清平（チョンピョン）で……。お母様が六十二歳から六十三歳に超えていくのです。『さぶろくじゅうはち』（3×6＝18）です。十八歳から、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三歳……と経験していく過程で、今日で言えば六十三歳、十七、十八歳以前に来て結婚したならば、その日からできるはずなのに、再蕩減しようと（お母様が）六十三歳を迎えながら、天一国の出発が連結されるのです。お母さん、分かったか」（マルスム選集４８９－27、「茶色の字」は『統一教会の分裂』からの引用。「青い字」は教理研究院による、以下同じ）

『統一教会の分裂』が「……」で削除した部分で、真のお父様は「今回、清平で……。お母様が六十二歳から六十三歳に超えていくのです。……六十三歳を迎えながら、天一国の出発が連結される」と語っておられます。すなわち、真のお父様が「さぶろくじゅうはち（3×6＝18）」と語っておられるように、お母様の六十三歳とは「3×6＝18」であり、「再蕩減しようと六十三歳を迎えながら、天一国の出発が連結される」と言われたのです。

このみ言は二〇〇五年二月十四日（天暦一月六日）、真のお父様が八十六歳、真のお母様が六十三歳の聖誕日を迎えられたときに語られたものであり、その日、真の父母様の「天宙統一平和の王戴冠式」

が清平（現、HJ天宙天寶修錬苑）で挙行されました。本来なら、真のお母様が「十七、十八歳以前（の若い時）に来て結婚したならばその日からできるはずなのに、再蕩減しようと（お母様が）六十三歳を迎え」るときまで待って、真の父母様は「天宙統一平和の王」を挙行され、「天一国の出発が連結され」たと言われるのです。そのため、真のお父様は「神様と一つになり、（神様の）体を永遠に探すためにも苦労し……お母さんを再び創造」されたと語られているのです。

『統一教会の分裂』の日本語版は、「お母さんが主張できない部分なのです」と訳していますが、正しくは「お母様は、主張することがないのです」になります。これは真のお母様が〝**絶対従順**〟であられることを語られたみ言です。にもかかわらず、この訳は、この書籍の翻訳者である内村鑑一氏による悪意のある、ないし意図的〝誤訳〟です。

また、上記のみ言に続いて、『統一教会の分裂』は重要なみ言を「……」で削除して、次のように引用しています。以下、「……」の削除している部分を青い文字で表記します。

「お母さん、分かったか。お母さんの責任、お父さんの責任を知らなければなりません。この愚か者が、王権も相続していないのに、お母さんを引き出せばどうなるか。サタンが捕まえるのです。アメリカで誰か、以前、女性連合の会長だった人が『お父様はお母様を尊敬しているか、崇拝しているか』と言うのですが、この小娘が、崇拝しなければならないと子供たちに教えていたというのです。そのようなことを知っているの？　郭錠煥（クァクチョンファン）。（「よく知りません」）知らないでしょう。先生は間違いなく知っているのに、

（郭錠煥氏は）知らないので、頂上に上がることができないのです。分かりますか？（「はい」）最近は、女性を立てるので、女性が一番だと思い、（郭氏も）お母さんを立てようとするのですが、父母様を立てなければならないのです」（マルスム選集４８９－27～28）

真のお父様は、「以前、女性連合の会長だった人が『お父様はお母様を尊敬しているか、崇拝しているか』と言うのですが、この小娘が、崇拝しなければならないと子供たちに教えていた」ことについて「そのようなことを知っているの？　郭錠煥」と尋ねておられます。しかし、郭錠煥氏が「よく知りません」と返事をすると、真のお父様は「（郭錠煥氏は）知らないので、頂上に上がることができない」と叱責されたのです。そして、真のお父様は「最近は、女性を立てるので、女性が一番だと思い、（郭氏も）お母さんを立てようとするのですが、父母様を立てなければならないのです」と語られ、郭錠煥氏を指導しておられるのがこのみ言なのです。ところが『統一教会の分裂』は重要な部分を「……」で削除して、その事実を隠蔽しています。

『統一教会の分裂』の引用の仕方では「この愚か者が、王権も相続していないのに……」という部分は、まるで真のお父様がお母様を「愚か者」と叱責しておられるみ言であるかのように読めますが、隠蔽した部分を削除せずに全体の文脈から読むと、「この愚か者が」とは、お母様のことではなく、幹部たちを叱責しておられるみ言であることが分かります。

さらに、上記のみ言に続いて、『統一教会の分裂』は次のように引用しています。

「お父様の行く道に皆さんが、女性たちが一つになり、お父様に侍らなければ、この女性たちが実体サタンとなるのです。金孝律！　公金があれば、お母さんが欲しいと言うからといって、お父さんに隠れて支払えば、問題が起きるのです。お父さんに尋ねなければならないのです。最終決定は。分かったか、お母さんが共に侍り、お父さんの前に報告すれば、お母さんと一つとなりますが、お母様を中心としてお父様が一つになるのは、堕落ではないですか。原理を外れた道理はありません」（マルスム選集489-28～29）

『統一教会の分裂』が引用した上記のみ言は、改竄されたものです。以下、削除している部分を指摘し、郭錠煥氏に関する部分を含めて引用します。

「お父様の行く道に皆さんが、女性たちが一つになり、お父様に侍らなければ、この女性たちが実体サタンとなるのです。……（12行を省略）……。郭錠煥！（「はい」）金孝律！　公金があれば、お母さんが欲しいと言うからといって、お父さんに隠れて支払えば、問題が起きるのです。お父さんに尋ねなければならないのです。最終決定は。分かったか、何の話か？（「はい」）報告するときも必ず（あなたたちが）来て、お父様が（お母様と）一緒にいるので、お父様が家にいれば、（あなたたちが）家に入ってきて、お母さんが共に侍り、お父さんの前に報告すれば、お母さんと一つとなりますが、お母様を中

心としてお父様が一つになるのは、堕落ではないですか。原理を外れた道理はありません」（マルスム選集489-28～29。注、「青い字」が削除されたみ言の部分）

『統一教会の分裂』は、「この女性たちが実体サタンとなるのです。金孝律！　公金があれば」と引用していますが、原典に当たってみると、「この女性たちが実体サタンとなるのです。……（12行を省略）……。郭錠煥！（「はい」）金孝律！　公金があれば……」となっており、12行分のみ言と郭錠煥氏の名前とが削除されています。このように削除することで、『統一教会の分裂』は、お父様が指導されている内容、み言の意味を〝改竄〟しています。真のお父様は、郭錠煥氏と金孝律氏に対し「公金があれば、お母さんが欲しいと言うからといって、お父さんに隠れて支払えば、問題が起きる」と叱責しておられるのです。さらに郭氏に対しても、公金の用途に対する最終決定は「お父さんに尋ねなければならない」と厳しく指導しておられる事実を隠蔽しているのです。

真のお父様は郭錠煥氏に対し、お父様に報告するときの〝原理原則〟について指導しておられます。すなわち、真のお父様は「お父様が（お母様と）一緒にいるので、お父様が家にいれば」、郭錠煥氏と金孝律氏が真のお母様に侍り「お父さんの前に報告すれば、お母さんと一つとなります」と指導しておられるのです。しかし、そうでない場合は「原理を外れた道理」であるということを、郭錠煥氏に教育しておられるのがこのみ言です。

ところが、『統一教会の分裂』は「郭錠煥」氏の名前をことごとく削除することで、真のお父様が「郭

錠煥」氏に対して叱責しておられる事実を〝隠蔽〟しており、まるで真のお母様を叱責しているみ言であるかのように読ませようとしているのです。このように、『統一教会の分裂』が引用した二〇〇五年二月二十五日のみ言は、「韓鶴子の不従順」を裏づけるものではありません。

㈼ 天の秩序について（二〇〇五年三月二日）

『統一教会の分裂』は248、249ページで、真のお父様が「韓鶴子の不従順」に対し苦慮しておられるみ言であるとして、二〇〇五年三月二日のみ言を引用します。

「お母さん、しっかり理解しなさい。神様がお母さんを中心として、先生と一つになれとは言いません。そんな道理はありません。心の位置に夫を中心として一つとなった後、その夫と一つとなった神様を中心として、絶対信仰・絶対愛・絶対服従しなければなりません。……お父さんよりお母さんを好きになるのは何故か。お母さんと通じれば無事だから。お父さんを騙してするから。そうしてみなさい。それは全て壊れていくのです。その子孫は、すでに決着が着くのです。お父さんの承諾を受けなければなりません」（マルスム選集489-222、223）

『統一教会の分裂』は、この内容が「創始者を不信する韓鶴子の態度」を裏づけるみ言であると述べます。しかし、これも〝虚偽の主張〟です。『統一教会の分裂』は、引用したみ言の直前の部分を隠蔽し、意味をゆがめています。真のお父様は、直前で次のように語っておられます。

「韓国の歴史において、息子、娘は絶対に、父の息子、娘という言葉が合うのです。最近、狂った人たちが……。戸主はどうなるの？　互いが戸主の看板を付ければどうなるの？　父が息子、娘を治め、妻まで治めなければならないのに、妻が思いどおりにし、息子、娘が思いどおりにして主人になるならば、父は何になるのですか？　神様を踏みつけて、上を、前を全て踏みつけようというのではないですか？　そんな考えをしていると、それは滅びます！　滅びる輩（やから）たちがそのような話をするのです。お母さん、しっかり理解しなさい。……」（マルスム選集489-222）

『統一教会の分裂』は、み言の青色の部分を隠蔽し、茶色の部分から引用を始めています。その隠蔽した部分で、真のお父様は「最近、狂った人たちが……。戸主はどうなるの？」と語っておられます。このみ言を理解するには、二〇〇五年当時の韓国の状況を知らなければなりません。

その当時、韓国の憲法裁判所が「戸主制」に対して違憲判決を下したことが韓国内で話題となり、韓国国会内でも「戸主制」の廃止が議論されていました。実際に二〇〇五年三月二日、韓国国会は「戸主制」を廃止する民法改正案を可決しています。

そのような韓国の「戸主制」廃止の動きについて、真のお父様は「韓国の歴史において、息子、娘は